う準備を進めてほしいと思います。また、指導者が増えると連絡調整が大変になります。陸上競技などは8人で指導しているのですが、試行錯誤を経て、スムーズな連絡体制を構築しました。令和6年度は3校での取り組みとなるので、連絡や移動手段などが気になっています。

津 矛盾しているようですが、部活動の地域移行により、教職員の指導機会の減少という課題が出てきます。部活動の指導が生徒の心の安定などに寄与することもあります。この部分は別の教育機会で生徒へのケアをしなければならないのかなと思います。

また、この事業が始まった頃は、学校の指導者と地域の指導者の方針が異なるケースを心配していました。その辺は、たぬまアスレチッククラブと学校で非常に綿密に情報を共有することで、今のところ杞憂で済んでいます。今後、対象校が拡大するとどうなるか、注視したいと思います。また、地域クラブ活動が本格的に始動すると、スポーツや文化活動をやる子とやらない子の二極化が進んでしまうのではないかと心配しています。

指導者の人材確保と質の向上

指導者の人材確保についてはどうでしょう。

津 まずは総合型スポーツクラブ。そして、スポーツ協会、レクリエーション協会、文化協会、その他個人で活動を行っている方などが指導者として見込めると思います。また、指導技術などに長けた教職員にも「地域の指導者として」参加してほしいと思います。今のところ、指導を受ける生徒が2200人、必要な指導者は100人と見積っています。各団体などには計画的に指導者の確保をお願いしたいと思っています。併せて希望する教職員にも参加してもらって、制度の安定と事業の充実を図りたいと思います。

清 今後は地元企業などに働きかけて人員を増やしていく努力も必要だと思います。実際に、たぬまアスレチッククラブでは、地元企業に相談して指導者の確保が図れた例もあります。

学校から地域クラブにお願いしていることなどはありますか。

新 田沼東中では、たぬまアスレチッククラブには「研修を必ず行ってください」とお願いしました。緊急時やけがの対応、熱中症の対応、個人情報の取り扱いやハラスメントに関する研修です。

清 コンプライアンスのことなどは、近年急速に意識が高まっているところなので、指導に当たる方には時代の要請についていけるよう、研修が必要になってくるところです。また、たぬまアスレチッククラブの会員は、アスリート寄りの方が多いので、指導経験はあまりありません。研修を受けたり、子どもたちの部活動を指導したりしながら、実践の中で勉強しているという段階です。だからこそ、教職員でこの事業に関わりたい方には1人でも多く指導陣の中に加わっていただきたいと思っています。ノウハウを交換することで、相互に高め合うことができるのではないかと考えています。

津 学校の教職員は、単にスポーツや文化活動の指導をするだけではなく、大事な生徒を事故やけがから守るため、安全面に相当な配慮を日頃からしています。そのために培ったノウハウを知っていただくということも大切だと思います。

現場での工夫

子どもたちを学校の指導者と地域クラブの指導者が棲み分けしながら指導しているわけですが、指導者が複数いて生徒は混乱しないのでしょうか。

首 あそ野学園では昨年5月から地域クラブの指導が始まりましたが、生徒たちは最初不安そうでした。私は、生徒と地域クラブ指導者をつなぐのが教職員の役割と思っていて、地域クラブに対しては練習メニューなどの情報を共有させてもらい、生徒に対しては多様な指導を受けられるメリットなどを伝えさせてもらいました。混乱なく、順調にスタートを切れました。

首藤先生は、サッカーの経験はおありなのですか。

首 経験ないです。野球とハンドボールをやっていました。スポーツは好きなのですが、サッカーに関しては知識がないので、地域クラブの指導者のサポートはありがたいです。「土曜日はどんな練習した？」などと生徒から情報を聞き出すこともしばしばです（笑）。

また、給食のときなどに生徒たちと雑談をします。そのときに地域クラブの話をすることもありますが、賛否両論があります。陸上競技部の生徒などは、各競技専門の指導者に教えてもらえるのがすごく良いと喜んでいます。一方、不満に感じやすいのは、指導回

数が月2回であることや他校の生徒と一緒の練習で、コミュニケーション不足に起因するもののようです。生徒の性格にもよると思います。

清 コミュニケーションがもっと多く取れれば解決できると思うのですが、月2回の制約は今のところ仕方のないところですね。できるだけ早期に回数を増やせるといいですね。指導者側もそれを願っています。

新 学校も最初の2、3回は地域クラブと一緒に指導をさせてもらうなど、コミュニケーション方法に工夫をしています。そこで、部活動の方針や生徒の活動の様子について情報を共有しています。また、大まかな練習内容を記録簿で相互交換して連絡調整を図ってきました。令和5年度からは練習場所が学校以外にも拡大し、記録簿を持ち出せないので、そこはLINEでやり取りするなどして円滑に進めているところです。

今後の部活動のあり方

今後、部活動地域移行はどのようなところを目指していくのでしょうか。

津 この部活動の地域移行は、都道府県によって状況が全く異なります。新潟県長岡市などは、地域クラブでしか大会に参加できないように準備を進めています。

清 スポーツや文化活動は大会やコンクールが付きものですから、大会などのあり方についても、同時進行で改革していく必要があると感じます。また、教職員に対し、所属校の部活動ではなく、居住地域の部活動を指導するよう進めている地域もあります。その辺は、地域実情を考慮した行政判断ですからね。

新 ビジョンの共有が非常に重要です。この事業が始まるとき、教育委員会から教職員、生徒、保護者にそれぞれ説明してもらいました。それでも教職員は不安で、休日の部活動を見に来たりということがありました。

しかし、それではこの事業がひとり立ちできないから、やめましょうと。そして、保護者に対しても通知やホームページでお知らせしてきました。今後、市全体で取り組むに当たり、ビジョンの共有がますます重要になると思います。

清 生徒や保護者が、部活動の地域移行という事業をクラブチーム育成と勘違いすることが多くあります。あくまでも、現在進めている地域移行は、チームは学校単位、監督は顧問の先生です。地域クラブは、スポーツの楽しさや練習の基礎・基本を教えることが使命です。地域クラブで得たものを学校に持ち帰り、練習を積んで大会で良い結果を残す。そういう橋渡しができればと思っています。

また、私たちは、この事業で地域人材の循環を目指しています。小中学生のときに地域の指導者からの手ほどきを受け、指導を受けた子どもたちが大人になったときに地域クラブに属して子どもたちへの指導をする。そうなったら素晴らしいと思います。

津 中学校時代に経験した競技は、生涯のスポーツ・文化活動につながります。この事業は子どもたちのスポーツや文化活動の機会の確保が目的です。国もこの辺に危機感を抱いているからこそ、学校部活動を地域に移行しようとしているわけです。佐野市においても、教育委員会だけではなく、関係各課が一緒になって進める必要があります。また、市だけではなく市民の皆さんにも積極的にご協力いただきたいというのが、私からの希望です。

サクラ特集

方言特集

消防特集

二十歳特集

皆さんの声をお聞かせください

令和5年4月号から「広報さの」をリニューアルし、これまでさまざまな特集記事をお届けしてきました！

これからもより良い佐野市の情報をお届けするために、ぜひ皆さんのご意見をお聞かせください。

「これまでの感想」や「今後取り上げてほしい内容」など ▶▶▶▶▶▶

ご意見はこちらから